

家族と家族幻想 9

坂口 伊都



子どもは、純真無垢に親や大事な
大人と共に心地よい時間を過ごした
がる。そして、大好きな大人がしてい
ることを真似して、子どもなりに頑
張ってみせる。大人を喜ばせたい一
心でしているようだ。

同じ楽しみを得ようとしているこ
とが、子どもの目的なのかも知れな
い。楽しみを分かち合う経験は、心
の奥底に残り続けるのだろう。

ワクチンを2回接種して、新型コロナも落ち着くと思えば、次はオミクロン株、そしてステルスオミクロン株と出てきて、3回目の接種が進められています。ウイルスの変異とワクチンのいたちごっこです。歴史から見ても2年も経てば、ある程度感染が落ち着くものだと思っていましたが、人流が世界にまたがってくると、終息も簡単ではないのだと実感します。オミクロン株は、あまり症状が出ていない方が多いといえます。一昔前であれば、症状が出ていなければ感染症は沈静したと判断されていたでしょう。今は、検査での判定をするので、無症状でも判明します。いったい終わりはどのような形でいつ訪れるのでしょうか。なかなか晴れやかな気持ちになれない日が続いていますが、皆さま体調はいかがですか？

元里子との外出も1月に初めにすることができました。その時に、里姉である娘も同行しました。娘と里子が会うのは、2年ぶりぐらいになります。お互い、見た目がずいぶんと変わりましたが、一緒にいる時の雰囲気は、昔のままです。娘が「お汁

粉を食べる」と言い、里子にも「食べる？」と聞くと、「うん」と頷きました。里子は、家にいた頃はお餅が嫌いだったのですが、成長と共に好きな食べ物も変わるようです。二人でお汁粉を食べている姿は、微笑ましかったです。娘と里子が話している様子もあまりなく、相変わらず口数の少ない里子を見て、どんな気持ちなのだろうなあと心配していました。次に会う日を相談していると、「この次もお姉ちゃん、来て欲しい」と言い出しました。そうかそうか、嬉しかったか。お姉ちゃん、大好きだものね。娘も会いたいと言ってもらって満更でもない様子で、姉弟の2人に癒される瞬間でした。

大好きと言えば、里子も息子も釣りやキャンプ、プラモデル等、父の趣味を好きになりました。父子の様子を見てみると、父が楽しんでいることに同調することで、それらを好きになるのではないかと感じます。わからないことがあれば、父に手取り足取り教えてもらえ、魚が釣れば一緒に喜んでもらえます。息子の時は、父親の遺伝子がそうさせているのかと思っていましたが、里子とは遺伝子レベルでのつながりはありません。それでも、兄と同じように父が好きなものを自分も楽しんでいました。大好きな父と共にできることの意味は大きいのだらうと感じます。

私も夫と釣りに何回か行きましたが、それほど好きにはなりません。釣りが全然上手くな

らないのと、釣られる魚を不憫に思ってしまうことが邪魔をして、夫との時間よりも、私の好きなものに引き寄せられます。小さな子どもから見たら、上手にこなす父の姿は、憧れの存在です。父との楽しい時間の共有は、子どもにとって大きな喜びとなるのでしょうか。父が趣味を持たない人なら、子ども達はもっと違ったものを好きになったかも知れません。

私は子どもの頃、母親に本を読めとよく言われましたが、母親が本を読んでいる姿を見たことがなく、母自身が楽しく感じていないことを勧められることに抵抗と反発を覚えました。結局、その当時の私は、本に苦手意識を持ち、本を手にしようとしなかったです。大人になってから、楽しそうに本を読んでいる人と出会い、そこから興味を持ち、読むようになりました。本の中にある、いろいろな物語が面白いと感じます。その姿を見て育った娘は、私が何も言わなくても本を楽しんでいました。娘とは面白かった本をそれぞれにお勧めして楽しんでいます。面白かった物語を語りあえると嬉しくなります。何かを好きになる時、同じように好きでいてくれる他者の存在は大きいようです。

子どもの頃、自分と近い大人が喜ぶものを好むのは、その人との関係性が良好であり続けることを望むからなのでしょう。小さい子どもは、よく大人の真似をします。「もう、早くして」と子どもが私と同じような口調で言うと、ハッとさせられます。私が、子どもの前で言っている姿を見せつけられているようで、反省します。良いことも悪いことも丸ごと子どもは受け入れ、大人の行動を手本とします。親が子どもに万引きを強要すれば、それに従う、大人から暴力を受けたり、目の前で暴力をふるう姿を見せられれば、その子はどこかで暴力をふるいます。大人がしていたり、するように言われたことが、悪いなんて思いもしないのではないのでしょうか。

大人は躰けるために、子どもの行動を責めて叱



ることがあります。説教をして、子どもに言い聞かせますが、反省しているように見えない時がしばしばあります。子どもの立場になると、他の人を大人と同じように責めたのに、それをするとまた大人から「そんな言い方をして、だから嫌われるんだ」と責められ、子どもは、大人を手本としても上手くいかず、混乱します。子どもによっては、癇癢を起します。癇癢を起すと、自分勝手だとまた責められ、悪循環が終わりません。子どもと私たち大人は何を共有していくかで、その子の交渉する力が大きく異なっていくように感じます。

生きていく中に楽しみを求めることは自然なことです。何か楽しみがあると、そこに向けて、日々の暮らしを乗り切ろうと頑張れます。それが逆転してしまうと、楽しみを作ること
に疲れてしまうというよう
なことが起こるようです。

それは、もはや楽しくはないでしょうね、きっと。

生きていく中で楽しみを求めることは、自然なことです。悲しい、辛い、苦しいだけでは生きていく
たくなるし、同じことの繰り返しで全く刺激がないのもつまらない。何か楽しみがあると、仕事や勉強を頑張ろうと思えます。何を楽しみと捉

えるかは、人によって違います。旅行やパーティなど特別なイベントを楽しみにということはよくありますが、それが終わってしまうと、その後の楽しみがなくなってしまいます。

イベント事の楽しみは、その時の流行りや、誰と一緒に過ごすかで左右されます。例えば、私が20代の頃、よくスキーに行っていました。スキーを楽しむというより一緒に過ごす友達との時間の方が楽しくて行っていたなと思います。スキー以外のものが流行っていたら、それをしていたでしょう。今思えば私は、スキーが本当に好きというわけではなかったようで、一端離れてしまうと行こうという気持ちが起きません。スキーが楽しみなのか、誰かと楽しい時間を過ごすことが優先されるかは、意識しなければ気づけないものだと感じます。人は、誰かと楽しさを共有したい気持ちを強く持っているようです。

子どもが何かを好きになるきっかけは、親や身近な大人が楽しんでいるかどうかから始まっているように見えます。成長するにつれ、一緒に楽しみたい相手が、友達や恋人へと変化して、その子の世界が広がっていきます。また、誰かと一緒に楽しむことが主になっている時期から、だんだんとそれでは満足感を得られなくなってきました。それが、自我の芽生えや自立していく過程です。人は何を面白いと感じるのでしょうか。

よく子どもは、ゲームが好きだと言いますが、多くの場合、子どもがするゲーム時間が長くないように大人が気を配り、ルールを設けています。もし、その枠組みがなく好きなだけゲームができれば、ゲームに飽きる子もいるでしょう。大人になってからもゲームが好きという人は多いですが、ゲームをすることを心底楽しみにしている人の割合は、子どもと比べると少ない印象を受けます。周りを見渡すと、ゲームを時間つぶしでしていたり、何も考えたくないからしている、前は熱中していたが今は冷めてしまっているといった人が多いように見えます。私は、すぐにゲームに

飽きてしまうたちなので、ゲームを本当に楽しむ人に出会えないのかも知れませんが、ゲームを楽しむ続けることも簡単ではないでしょう。現実逃避でなく、これがあるから面白いと思えるようなものは何だろうと考えて、これだと言えるものが見つくでしょうか。私は、すぐに答えられないので、つまらない人間だなと感じます。

私の母は、時間があるといろいろと要らないことまで考え、思い悩んでしまうので、退屈を埋めるための用事を欲しがります。母は、「楽しい＝イベント事」と決めつけているようです。老人会の食事会、カラオケ、麻雀、旅行、買い物等の予定が入ると楽しみができた喜びます。それを楽しんでくれるといいのですが、あの人こんなことする、あんなことを言うと言います。「やっぱり家族で気を遣わずに行くのが一番楽しい」と言ったかと思えば、「最近、近所で車を出してくれる人がいて4人で出かけていて楽しい」と嬉しいように言い、そしてしばらく経つとあの人こんなことする、あんなこと言うとなります。母に学習能力というものはないのかと突っ込みたくなります。母は退屈が嫌で仕方がないので、働いたり、ボランティアをしたらと勧めると、そこは断固拒否、きっぱり嫌がります。母子家庭で子どもを育て、自分一人で頑張ってきたという自負心があるので、社会の中に属することから逃げたいようです。自分で何かと決めつけてかかることで、生きる幅を狭めてしんどくなっているのですが、それを止められません。

母は3回目のワクチン接種も、「モデルナの方が効くみたいだからそちらを受けたいが、1回目も2回目もファイザーだったから、今回もファイザーになると思うのよ」と言い、落ち込んでいます。「その情報はどこから？」と尋ねると「私の頭の中」と言います。「それは議論にならないかな」と返すと、笑いながら「そうか、議論にならないか」と母が言います。話すことで、母自身も気づいたようです。私は、それなりの根拠で今のワクチン

情勢を伝えますが、母に取っては、私の裏付けよりも娘が言っていたからの方が重要度が高くなっていると思います。結局、3日目ワクチンの予約が取れて、モデルナだったと照れくさそうに報告の電話がありました。

日常生活が楽しいことばかりという人はいません。母のように時間があると、つい考え事をしてしまう気持ちもわかります。忙しくしていれば考え込む時間が減るので、何か予定が入ると救いになります。実際に出かけていくと対人関係が上手くいく日ばかりではなく、余計な考え事が増えて、疲れることもあります。時間を有効に使えていると思えると充実感が得られますが、無駄に過ごしていると思うと後悔を感じます。

成人を迎えたばかりの娘を見ていると、子ども時代を終え、自分の意志でできることが大幅に増え、未来に向けたエネルギーで満たされているように見えます。時間に対して娘は能動的に動いていますが、バイトの希望したシフトに入れなかったりすると電話がかかってきます。一人で過ごしたくもないし、出かけるとお金を使うしと愚痴をこぼします。感じていることは、楽しんでいるように見える大学生も高齢の母も大差ないようです。若い人は目一杯予定を入れることも平気で、年



を重ねるといろいろな事におっくうになっていく感覚もわかります。年をとってもエネルギーに生きている人に出会いますし、若者でもエネルギーが出てこない方もいます。年齢だけで語れるわけではありませんが、そのエネルギーを持続するためには、コツがいるようです。

楽しみは、日々の些細なものから見つけられると探す苦労が減ります。それを見つけるためには、まず一人で過ごす時間の中で楽しむことが第一条件となります。毎日誰かと一緒にいることは難しいですし、一人で過ごす時間も大事です。一人は寂しいを前提にしていないか再考したらいいのでしょう。皆で過ごせば必ず楽しい時間になるわけではないという経験は、誰もがしています。一人になってホッとする経験も同様です。一人でいると寂しいと思い込んだり、周りからどう見えるか心配したりしていると一人の時間を楽しめません。また、自分の周りが敵だらけだと、自分の周りを見渡す余裕は生まれません。まずは、自分の周りにいる家族や仲間と離れていても、声をかければ受け入れてもらえる感覚を持てれば、一人で過ごす時間を肯定的に捉えられます。そのプラスのイメージの中からなら、楽しむことが見えてくるのではないのでしょうか。一人を楽しむのは、その人の力だといえます。

楽しさをイメージすると明るく華やかなものが浮かんでくる。でも、そんな楽しみばかりで埋め尽くせるわけでもない。日常の中にある地味な楽しみは気づきににくいけど、けっこう長続きする気がします。

人は気持ちにムラがあるものです。いつも元気でいられるわけではありません。ストレスが溜まると身体の弱い所に出ると言われますが、気持ちも同じでしょう。子どもの頃から癖づいた考え方が顔を覗かせます。私は、自分一人では何もできないダメな奴という考えが出てくることがあります。子どもの頃によく親から言われた言葉です。元気な時は感じませんが、疲れたりすると出てきます。これは、これからずっと続くだろうと思います。それが出てきたら、自分の調子がよろしくないサインです。そして、自分の周りを見渡してみても、これがストレスになっているのかなと考えを整理して、落ち着くようにしています。

子どもが親と一緒に楽しむ体験は、他者や自分を信頼する入口です。親でなくても、信頼できる大人と心地よい体験は自分の中に刻まれます。同じように悲しい、辛い、傷ついた経験も刻まれます。どちらの体験も経て私たちは大人になっていきますが、どちらの思いが自分の中により強力に残っているのでしょうか。困ったら、寂しくなったら慰めてと行けば受け入れてもらえるイメージを持てると人は強くなれるように見えます。

「一年生になったら友達100人できるかな」という歌がありますが、明るく友達が多い方が良いと刷り込むことに成功しています。友達とトラブルばかり起きる子が、フォロワー数を増やすことに必死になっていました。数に慰められていましたが、その子はどこまで数を求め続けるのでしょうか。

インスタ映えという言葉も良く聞きます。切り取られた画像は、楽しい気な雰囲気伝わってきます。華やかな感じをまとっている方が楽しそうな気がします。あえて華やかでない楽しみを探してみようかなと思います。子育ても一段落して、寿命も延びたこれからの人生、一人遊びを楽しむことができれば、老化していくことも悪くないと思えそうです。